

第38回 ザ・令和ライブ

織田みさ穂

(徳間ジャパンコミュニケーションズ)

福島県郡山市出身の織田みさ穂は、幼児より歌が好きでした。ただ吃音のためいじめにあたりていました。それを修正しようと高校を卒業すると単身で上京し歌に励みます。1996年にキングからデビュー。その後レコード会社を移りながらも、スタンダードやジャズを中心としたライブやコンサートをごこなしてゆき、いまは徳間ジャパンコミュニケーションズ所属。デビュー25周年記念曲、「あなたの風に吹かれていたい」に全力投球している。



石原まさし

(エスプロレコーズ)

沖縄県出身で、中学生でデビューし、昭和歌謡の歌や歌手について幅広い知識をもっている石原まさしも成人に。最近では「いいものはいい」と、昨年、エリック・クラプトンを見に、武道館にまで足を運んだ。そして今年は沖縄在住の父親とスケジュールを合わせ、大阪まで父が好きな吉田拓郎のコンサートに足を運んだ。さらに、自分の音楽の幅を広げようとそれぞれのステージで魅入られたエレキギターやハーモニカを密かに練習しているとか。



原田波人

(日本クラウン)

祖父にカラオケへの手引きをされ、曾祖母に導かれる。兄と自分を女手ひとつで育てる母に感謝し、「波人の建ててくれた家は快適だよ」と言われる日を夢見る和歌山市出身の原田波人。人懐っこさと人柄のよさで関係者に可愛がられ、トンカツや焼き肉を好むが体型維持には気を遣う。歌への情熱が衰えた時期もあったが、「氷川きよしさんのコンサートに行き、ただただ楽しかった。夢は氷川さんのように、観客を魅了できる歌手」という。



須賀亮雄

(日本コロムビア)

宮城県東松島市出身の須賀亮雄。祖父母に演歌を聴かされ、物心つくとき北島三郎に憧れ、北島こと原譲二作の「アイヤ子守唄」などを歌唱し演歌歌手を志す。芸名の須賀は地元で「登り竜をあしらった神社にちなんだ。そのため、7月発売の新曲「蔵王の風」では東京・四谷の「須賀神社」でファンとともにヒット祈願を行った。デビュー曲、「ふるさと春秋」は祖父、今作は父への想いを深く込め、豊かな歌唱力と温かみのある東北魂で歌い上げる。



人生に歌が寄り添い、私たちを励まし勇気づけた時代がありました。昭和～平成と時が流れ、情報の氾濫や趣味の多様化で世代間の価値が異なるようになりました。“日本人のこころの歌”もチグハグになってしまいました。その風潮を食い止めたい、歌心にあふれた歌手にスポットを当てたいと願い、立ち上げたライブイベントです。

企画・構成・トーク
湯浅 明



2026年9月17日(木) 開場 15:00
開演 15:30

代々木上原・けやきホール [東京都渋谷区上原3-6-12
TEL:03-3460-9051]

料金 4,000円(税込)【最新シングルCD 1枚付 ※CDのタイトルは選べませんので予め御了承ください。】

お問合せ
申し込み

令和ライブ事務局(受付時間:平日・月～金の午前10時～午後4時まで)

080-2672-2645

<受付期間>8月17日(月)から、公演前日まで
※チケットは、当日会場にてお渡しいたします。受付の際に
予約番号をお伝えしますので必ずメモをして下さい。



<主催> 湯浅プロジェクト <協力> 第一興商/ミュージックショップダン/月刊カラオケファン
YouTubeはこちら [YouTube]「湯浅明の歌謡曲万歳」 [公式HP] <https://www.reiwa-live.com> 公式HPはこちら



第39回 令和8年11月26日(木)